

令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立藤戸台小学校
校長氏名	堀 本 純 平
作成日	令和4年3月11日

1 教育目標

自分の成長を感じる子供の育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・全国学テ、県学習到達度調査で正答数がそれぞれ全国や県平均を上回る。 ・わかる授業、子供主体の授業の実践(児童・教師90%)	・学校が楽しいと感じる(児童90%) ・いじめの解消率100%	・早寝・早起き・朝ごはんの実行(90%) ・積極的な運動の計画・実践(90%)	・学校の様子が伝わった(80%) ・ゲストティーチャー、読み聞かせボランティア等の人材活用(教師80%)
重点目標 【P】	○教育研究(主体的・対話的で深い学び) ○探究的・問題解決的学習 ○基礎基本の確かな学力の定着 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進	○道徳教育・人権教育の充実と他教科との連携による人権意識の向上 ○いじめの未然防止、早期発見・解決 ○豊かな読書活動の推進 ○一人一人を大切にする学級づくり・仲間づくり	○体力向上の推進 ○基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成	○保護者・地域との連携充実 ○地域教材・地域の人材の更なる活用 ○保幼小の接続、小中の連携
取組の状況 【D】	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(効果的な学習・指導方法の研究)や校内研修の実施に取り組んだ。 ○各授業において「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を徹底した。 ○基礎学力の定着のため各授業及び放課後の時間の活用により取り組んだ。 ○家庭学習の定着のため手引きを配布し自主勉強(「希望のしるしノート」)	○道徳の授業では教科書を中心に多面的に考え議論できる対話的な授業を実施した。 ○いじめアンケートを学期に1回実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について研修できる機会を設定した。 ○生物の飼育、植物の栽培活動に取り組んだ。 ○全学年に学校図書館を利用する時間を設定し、読書の奨励に取り組んだ。	○体力の向上のためスポーツテストから児童の課題を把握し、体育授業では運動量の確保に努め、運動の楽しさ、喜びを味わえる授業づくりに取り組んだ。 ○「早寝・朝起き・朝ごはん・挨拶」を推奨し、生活習慣の確立に努めた。 ○避難訓練(火災・地震・土砂災害・不審者対応を想定)を計画的に実施することができた。	○コロナ禍において制限のある中、PTAの活動や校区センターの活動、学校行事については活動は減少したが、できることを精選し実施した。実施に際し、感染症対策を図り、教育活動やPTA活動を継続する方を考え実施した。
取組の成果と課題(評価結果) 【C】	○コロナ禍においても感染症対策を徹底し、研究授業・研究協議を実施し、授業改善に努めることができた。 ○児童・保護者の「希望のしるしノート」の進め方の参考となるよう定期的・積極的に校内に掲示した。	○道徳や人権の授業では、コロナ禍においても感染症対策の上、児童が自分の事として考え児童同士が意見交流できる時間を確保した。 ○いじめアンケートを学期に1回実施し、全教職員共通理解のもと、早期発見・解決に取り組むことができた。	○スポーツテストから児童の課題を把握し、その課題の克服のため、体育授業では運動量の確保に努め、運動の楽しさ等を味わえる授業を実施することができた。 ○早寝・朝起き・朝ごはんについては、90%以上行えた。	・地域の方々との交流はコロナ禍において困難であった。来年度は感染状況を注視しながら、感染症対策を講じ実施可能な取組を研究したい。
改善方法 【A】 次年度に向けての	○教員の授業力向上等のための校内研修・校外研修を積極的に進める。 ○教科指導力を高めるための研究授業・公開授業・協議会を行う ○家庭学習や自主勉強の充実のため、家庭との連携を進める。	○道徳においても「考え・話し合う」授業を推進するため、道徳の授業を積極的に公開する。	○今後もスポーツテストを行い子供達の体力面の課題をつかみ体育の授業に生かしたい。 ○緊急時の下校訓練については課題も多く、次年度も定期的に行いたい。	○図書ボランティアを募集し、図書室の環境整備と読み聞かせを実施する。 ○ホームページの更新に努め、各学年の行事等の様子を積極的に公開する。 ○コロナ禍においても、大学との連携・協力体制について研究し、交流を更に深める。

3 その他の課題

■次年度以降も児童数の増加が見込まれる本校では、地域とともにある学校の実現のため、コロナ禍において感染状況を注視しながら、コミュニティスクールを活用し、校区子どもセンター事業や育友会行事への参加協力を進め、家庭や地域との連携を深めていく。 ■教員の資質能力の向上については、外部人材の力を活用しながら、チームとして組織的かつ効果的な対応を行う必要があると考えており、次のような方策を立て課題解決に取り組む。(感染症対策を徹底した上で取り組む。) ○校内チーム体制の強化(学年部会・教科部会・研究部会等) ○元校長等による各教科研究部会における指導助言 ○現職教育における教育技術に係る研修の充実 ○学識者による公開授業・授業研究協議における指導助言(和歌山大学との連携による校内カンファレンスへの参加)
